

第 11 期定時株主総会 質疑応答要約

この質疑応答要約は、2022年3月20日（日）開催の当社第11期定時株主総会において、出席者（会場出席・バーチャル出席）の皆様からいただいたご質問とその回答を要約したものです。

※株主総会で取り上げさせていただいた事前質問とその回答、また、バーチャル出席の株主様よりお寄せいただき当日取り上げることができなかったご質問のうち、目的事項に関係するご質問とその回答についても、その要約を記載しています。

【Q1】 2022年度から新たな経営体制に変更されていますが、会社経営や事業展開の方針に変化は
(事前質問) あるのでしょうか。

【A1】 (回答者：石村)

これまでは、強みであるFXを中心とした既存ビジネスの徹底強化にフォーカスして事業展開してきました。既存事業は重要ですが、持続的成長を図るためには、新たな事業も育てていく必要があります。2022年度については、既存事業の徹底強化による収益拡大に加えて、昨年開始したNFT事業、バーチャルオフィス事業などの新たな事業の育成に今まで以上に積極的に取り組んでいきます。

【Q2】 国内でFXの事業を行う子会社が3社になったが、どのような棲み分けなのか、統合した方が効率的ではないでしょうか。
(事前質問)

【A2】 (回答者：石村)

競争の激しいFX業界において、多ブランド戦略は有効であると考えています。今後も各社間で切磋琢磨しながら、それぞれの強みを有機的に融合させて、顧客基盤と取引高シェアの拡大を図っていく方針です。

口座獲得に関しては、FXを取引されるお客様は複数のFX会社の口座を持たれることも多いため、複数のブランドがあることで、顧客基盤を拡大できるものと考えています。口座開設システムなど共通化できることを共通化することで、効率化にも取り組んでいきます。

【Q3】 今後は直接米国株に投資できるようにすることが重要であると思います。GMOクリック証券は、CFDに力を入れているため、CFDで米国のETFに投資できるような仕組みを充実させてはどうでしょうか。

【A3】 (回答者：石村)

まだ十分とは言えませんが、GMOクリック証券では、CFDに米国ETFに連動する（参照原資産とする）銘柄を少しずつ追加しています。今後、株主様、お客様のご意見などをお伺いしながら、充実を図っていきたいと考えています。

【Q4】 暗号資産の売買による利益は損益通算できない雑所得であり、納税できずに自己破産するという報道を最近目にしたのですが、業界として国に改善を求めることや、強制的に納税資金を

プールするようなサービスの構築を考えてみてはどうでしょうか。

【A4】 (回答者：石村)

暗号資産取引への課税については、当社も問題意識を持っており、日本暗号資産取引業協会を通して要請を行っています。国としては、暗号資産のマネーロンダリング防止に重きを置いているので、まずは暗号資産業界一丸となって、その整備に取り組んでいるところです。特定口座のような仕組みなどで納税資金をプールするという点については、今後の参考とさせていただきます。

【Q5】 NFT 事業のリスクについて、お伺いします。NFT は日本だけでなく、海外の取引所でも売買が可能です。日本の税制が海外より不利ということになれば、誰も日本の取引所で取引しなくなる可能性もあると思いますが、そのリスクについてはどうお考えでしょうか。

【A5】 (回答者：高島)

我々は GMO アダムを昨年 6 月に設立して 8 月から NFT 事業を開始しましたが、当初のイメージとは異なり、それほど高額で取引される NFT は出てきていません。海外では何千万円、何億円という NFT の売買が注目されていますが、日本国内では、今のところ、数万円、数十万円で購入した NFT の値上がりは 1.5 倍や 2 倍程度という状況です。

我々が目指しているのも、そうした高額での取引ではなく、できるだけ多くの方が参加して自分の欲しいジャンルの NFT を購入し、必要に応じて売却できる、こうした取引が潤滑に行えるマーケットプレイスです。漫画やアニメーションといった日本の文化を世界中の人に楽しんでいただけるような NFT を作り出して販売し、日本と海外の架け橋になっていけたらという思いで取り組んでいます。

結果として、NFT 取引において高額の税金が出てしまう可能性はありますが、現状ではそれをリスクとは捉えていません。

【Q6】 前期において、暗号資産にかなりの広告宣伝費をつぎ込み、売買代金シェアは 32% に達していますが、今後も競合他社が広告宣伝を打ってできれば、対抗して宣伝を打っていくのか教えてください。

【A6】 (回答者：石村)

暗号資産はボラティリティが高いマーケットであり、収益が出るときと出ない時の差が激しいため、収益が出ているときにしっかりと顧客を獲得しなければならないという基本認識のもと、広告宣伝費を投下しています。

(回答者：高島)

昨年度の前半は暗号資産が大きく値上がりしていた時期で、暗号資産の取引で利益が出ているというニュースが流れたこともあり、暗号資産業界全体で、新規口座開設申し込みが非常に増加している状況でした。値下がりしている状況で大量に広告予算を投下しても、知名度は上がるかもしれないですが口座開設には結びつかないので、昨年は通常の何倍もの方がお申し込みをされているというタイミングで、顧客基盤を拡大するために思い切って広告費用を投下し

ました。マーケットが好調で申し込みが増えるタイミングでは広告費用を積極的に投下し、逆にマーケットが低調で申し込みが少ない状況下では縮小することで、効果的なマーケティングを行うという考え方です。一方で、認知度を維持するために、一定量のテレビCMというのは継続していこうと考えています。

【Q7】 CFD 事業について、昨年、鬼頭副会長は、個人的な期待も込めて5年で倍ぐらいの規模にしたいと発言されていたが、長期的にどのぐらいの成長を見込んでいるのでしょうか。

【A7】 (回答者：石村)

CFD はこれまでなかなか認知されず、マーケットも小さかったのですが、最近、コモディティの値動きが激しかったことで、その認知も高まってきています。今では希望的観測ではなく、かなりの成長が期待できると考えています。株やFX で取引を始めたお客様が CFD も取引されるようなクロスセルや銘柄拡充に加えて、CFD に参入したいと考える他社向けの BtoBtoC などの施策によって、マーケットを広げて成長していきたいと考えています。

(回答者：高島)

今は、日本株中心の投資から、海外の株式やFX、暗号資産と投資先を変える方が増えてきているような状況にあります。こうした流れの中で、我々としても、株式取引から始めて、収益性の高い CFD やFX なども取引していただけるようなクロスセルを強化していきたいと考えています。

CFD の取り扱い銘柄については、日本での知名度やお客様のニーズ、カバー取引がしやすい流動性を考慮し選定していますが、個別銘柄はなかなか取引が伸びにくいので、先ほど、株主様よりご提案があったように、今後はETF のような銘柄を積極的に取り入れていくのも面白いのではと考えています。先ほどは貴重なご意見をいただき、非常に有難くお話を拝聴しました。

【Q8】 鬼頭副会長が社長を退任した理由と取締役に残る理由を教えてください。

【A8】 (回答者：石村)

当社は、事業規模の拡大と多様化が進む中で、これまで以上に新規事業にも積極的に取り組み、一層の成長加速を目指すため、本年1月1日付けで社長交代を含む経営体制の変更を行いました。鬼頭は、当社での取締役及び代表執行役のほか、複数の会社の代表取締役を務めた企業経験、金融業界での経験を有しており、これらを踏まえて取締役として適任であると判断しています。

【Q9】 タイ王国での証券事業は他社と比較して具体的にどんな強みがあるのか。またタイ王国向けの中長期的な事業計画を教えてください。

【A9】 (回答者：石村)

タイ王国での証券事業では、信用取引に注力することで着実な成長を続けています。成長に向けた取り組みとしては、資金を調達して、信用取引残高と収益の安定的拡大を図っています。

信用取引残高シェア No.1 を目指しています。一定の信用取引残高が積みあがった際には、新サービスの導入を検討し、サービスと収益の多様化を図っていきたくと考えています。

【Q10】 今後女性取締を増やしていく見通しはあるのでしょうか。

【A10】 (回答者：石村)

女性の登用の必要については当社としても十分に理解しており、実力実績ベースで男女分け隔てなく公正な登用を実施したいと考えています。

【Q11】 自社株買いを継続すれば株式数が継続して減り、継続的な EPS 増、増配が可能になると考えられるため、継続して、一定比率は自社株買いにあてることを考えられないのでしょうか。

【A11】 (回答者：山本)

配当や自社株買い等の株主還元については、当社を取り巻く環境を考慮しながら、決定しています。今後も、グループ会社における事業での資本・資金の必要性など自己資本の充実と株主還元のバランスを総合的に勘案しながら検討していきたくと考えています。

【Q12】 (当日取り上げられなかったご質問) オンラインの総会は最前列でみているような良さもあって悪くはないです。新型コロナウイルス感染症の流行が収まっても、オンラインと会場の両方で総会を行う予定はありますか。

【A12】 来年以降の株主総会の開催方法については、未定ですが、インターネットによるバーチャル出席は大変好評をいただいていますので、引き続き継続できるよう検討いたします。

【Q13】 (当日取り上げられなかったご質問) 前期の業績は良かったですが、これは暗号資産の値上がりに伴う一過性の話ではなく、継続的に見込める数値なのでしょう。今期、来期以降の売上、利益の見通しを教えてください。また、ストックビジネスなど、確実に固い数値の割合なども教えてほしい。

【A13】 前期の業績については、上期の暗号資産市場の活況の好機を捉えて、急成長した暗号資産事業が牽引し、過去最高業績となりました。証券・FX 事業もですが、暗号資産事業は、特に暗号資産の価格のボラティリティが非常に大きく、市況の影響を強く受けるため、安定的な収益の見通しを立てるのが難しい事業です。そのため、当社は業績予想や中長期的な目標数値をお示ししていませんが、持続的な成長を図っていくため、強みである店頭 FX の収益力強化・シェア拡大、CFD や暗号資産の顧客基盤・収益の拡大、海外での証券事業や新規事業の成長加速など、既存事業のさらなる成長と事業ポートフォリオの多角化に向けた各施策に取り組んでいます。

証券・FX 事業、暗号資産事業については、基本的にはお客様のお取引に応じて収益が上がるビジネスモデルであり、現状ではストック型の収益の割合は非常に低くなっています。持続的に安定した成長のためにはストックビジネスも必要と考えており、ストック収益の増加は経営課題と認識しています。

以上